

(学年) 1年次、(教科・科目) 総合的な探究の時間

一斉学習

(単元) いまの自分 これからの自分

(本時のねらい)

- ・ 社会人として必要なスキルについての考えを、グループ内で説明することができる。
- ・ 学校での活動と将来必要なスキルを比べ、類似点や相違点について気づいたこと、感じたことをまとめることができる。

(ICT 活用方法)

- ・ 類似点や相違点を捉えやすくするため、前時や本時の活動内容を電子黒板に投影する。
- ・ 後日の振り返り等で活用するため、感想や活動内容の記録を行わせる。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習内容を知る。</li> <li>・ グループに分かれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会人として必要なスキルについて考えることを伝える。</li> <li>・ 人数や人間関係に配慮し、グループ分けを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時のテーマを電子黒板に投影する。 (授業支援クラウドアプリ)</li> </ul>
展開 33分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会人として求められるスキルについて考え、付箋に書く。</li> <li>・ 台紙に、付箋を貼り、理由を説明する。</li> <li>・ 似た内容の付箋をまとめて貼り、それぞれに適するスキルの名前を書く。</li> <li>・ 各グループの内容を見る。</li> <li>・ 自分のグループや前時の内容との類似点や相違点について、気づきを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「一緒に働きたい人」や「社員として採用したい人」を考え、付箋に3枚書くよう説明する。</li> <li>・ 付箋を台紙に貼り、まとめるよう促す。</li> <li>・ 各グループの台紙を電子黒板に投影し、前時の台紙(学校での活動)と比較させ、類似点の確認を促す。</li> <li>・ 発表されている箇所に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考えるテーマを電子黒板に投影する。 (授業支援クラウドアプリ)</li> <li>・ 各グループの台紙を電子黒板にうつす。発表(気づき)を書き込む。(授業支援クラウドアプリ)</li> </ul>

		対応する、投影された箇所に印をつけさせる。	
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スキルの確認をする。</li> <li>• 教育クラウドプラットフォームに感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学校での活動で身につくスキルと社会人としてのスキルに、類似点が多いことを伝える。</li> <li>• 卒業までに身につけるべきスキルについての図を示し、説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• グループのまとめや職業準備ピラミッドを電子黒板に投影する。(プレゼンテーションソフト)</li> </ul>

(授業の様子)



教材投影方法①  
(グループの記録を投影・共有)



教材投影方法②  
(まとめ)



教育クラウドプラットフォームに感想入力

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

- 板書と異なり、電子黒板を使用した場合、生徒の表情や反応を見ながら進めることができた。そのため、反応に応じて、説明を詳しくしたりペースを速めたり調整することができた。
- 動きや変化(授業支援クラウドアプリのめくりやプレゼンテーションソフトのアニメーション等)を投影した際には、表情が変わる、声が出るなど特に反応が大きかった。適宜取り入れることで、画面に注目しやすくなったと感じた。
- 今回は、画用紙と付箋を使ったグループ活動を行い、その結果を投影して内容を共有した。画用紙と言葉の発表よりも、電子黒板に長く顔を向けられていたと感じられた。授業支援クラウドアプリでのグループ学習でも同様にグループの全員が同じシートに書き込むができるが、一人一台端末に慣れていない生徒がいる現状では、習熟度に応じてリアルな活動と一人一台端末の活用を組み合わせる必要があると感じた。
- 現在は、教科書準拠のノート等の活用が多く、各自が一人一台端末を使用する機会が少ない。生徒によっては、パスワードを忘れていたり、使用経験のあるアプリ名を伝えられても探せないことがある。一人一台端末を使用する機会を定期的に確保することや使用するアプリの種類を増やすことが必要だと考える。